

第32回革新的研究開発推進会議 議事概要

- 日 時 平成30年2月1日(木) 11:38～11:46
- 場 所 中央合同庁舎8号館 8階特別大会議室
- 出席者 久間議員、原山議員、上山議員、小谷議員、十倉議員、橋本議員
- 事務局 山脇統括官、赤石審議官、生川審議官、黒田審議官、進藤審議官、柳審議官、室谷参事官、遠山参事官、鈴木参事官

○ 議事概要

午前11時38分 開会

- 久間議員 それでは、第32回革新的研究開発推進会議を開催させていただきます。

本日は公開で行います。

松山大臣、あかま副大臣、山下政務官、内山田議員が御欠席です。

本日の議題は、PMによる研究開発プログラムの見直し案の承認について、及びPMによる研究開発機関の見直しについてです。

まず、議題1ですが、全16名のPMに関する平成29年度の研究開発プログラムの進捗状況について、各PMからヒアリングを実施し、PMによる研究プログラムの見直し案を1月18日、1月25日のImPACT有識者会議で御確認いただきました。

本日は、有識者会議において審議した3名のPMに関する研究費総額を含む研究開発プログラムの見直し案について、推進会議において承認をお諮りしたいと思います。

まず、事務局から説明をお願いします。

- 鈴木参事官 ImPACT担当室の鈴木でございます。

右上に資料1と付してございます資料を御覧いただきたいと思います。ImPACTにつきましては現在16名のプログラム・マネージャーによりまして研究開発を推進しているところでございます。従来の国家プロジェクトあるいは民間の自主的な研究開発投資では扱えないようなハイリスク・ハイインパクト研究を推進するということで、既に幾つかの研究成果が出ている状況でございます。つきましては、平成30年度にプログラム最終年度を迎えますので、今後研究開発の更なる加速化が求められる分野といたしまして、特にSociety 5.0の実現に資するICT、それからバイオ分野の推進に有望な研究成

果の実用化、事業化を加速するための研究費の追加配分を御承認いただきたいと考えております。

具体的には次の3ページ目を御覧いただきたいと思います。今回御提案申し上げますのは、佐橋プログラム・マネージャーの「無充電で長期間使用できる究極のエコIT機器の実現」、それから2番目でございますが、野地プログラム・マネージャーの「豊かで安全な社会と新しいバイオものづくりを実現する人工細胞リアクタ」、そして3点目は原田博司プログラム・マネージャーの「社会リスクを低減する超ビッグデータプラットフォーム」についてでございます。

プログラム内容につきましては、いずれも先ほど座長からも話がございました2回のIMPACT有識者会議において先生方の御審議いただいているところでございます。

今回の増額予定額といたしまして、その右側でございますが、いずれの下の欄に書いてございます。佐橋プログラムにつきましては1.4億円の増額、また野地プログラムにつきましては1.2億円の増額、原田博司PMにつきましては約2.9億円の増額ということで御提案申し上げたいと思います。

以上でございます。

○久間議員 ありがとうございます。

ただいま説明がありました各研究開発プログラムの研究費総額の見直しにつきまして、推進会議として承認してもよろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

それでは、次に移ります。議題2ですが、16名のPMに関しましては研究開発プログラムの進捗に応じて研究開発機関の追加が随時生じておりますが、革新的研究開発推進プログラム運用基本方針取扱要領に基づき、日本国外の研究開発機関については承認を求めることとしております。それでは、事務局からPMによる研究開発機関追加について説明してもらいます。

○鈴木参事官 資料2を御覧いただきたいと思います。IMPACTプログラムの運用基本方針におきましては、日本国外の研究機関を選定する場合には、推進会議での承認が必要とされているところでございます。本日、田所PMにより、海外の研究機関を追加指名したいという要望がございますので、御承認をお願いしたいと考えております。

またあわせて、山海PMによる研究開発機関の追加でございますが、これについてはPM

関係機関を含むものではございません。しかしながら、研究機関を追加する場合には I m P A C T 有識者会議の確認を得るという手続を必要としておりますので、本日あわせてお諮りをしたいと考えております。

(1) を御覧いただきたいと思いますが、田所 P M におかれましては、タフ・ロボティクス・チャレンジにおいて、災害用ロボット等を開発いただいているところでございます。また、今年の 2 月の I m P A C T 有識者会議におきましては、その中の研究成果の 1 つといたしまして、サイバー救助犬のサイバースーツを山岳救助等に活用することで、国際展開を図るための取組を御了承いただいているところでございます。この展開を図るうえで国際標準規格等をこれからつくっていきたいと考えているわけでございますが、このロボット評価に必要な評価手法等の開発に今回オーストラリアの研究機関を追加したいという申出でございます。

次の 2 ページ目 (2) を御覧いただきたいと思いますが、山海 P M におかれましては、重介護ゼロ社会を実現する革新的サイバニックシステムの開発ということで現在研究開発を進めていただいております。これにつきましても、その下の表を御覧いただきたいと思いますが、重介護者をゼロにするためのロボット開発等が進められているわけでございますが、そのためのインターフェースあるいはデバイス開発、さらにはそれらインターフェース、デバイス等から集められたビッグデータを処理していくシステム開発といった 3 つのプロジェクトで進められております。これら研究開発の実用化等を図る上で必要なデータの解析等々行うための研究機関を追加したいということで、P M 主催の公開ワークショップを行い、広く民間企業等からアイデアを募集し、その中から今回この 6 の民間企業が選定されたという経緯でございます。

以上でございます。

○久間議員 ありがとうございます。

ただいま説明がありました研究開発機関の追加について、また田所 P M の国内外の研究開発の追加について、推進会議として承認してよろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

以上で、第 3 2 回革新的研究開発推進会議を終了させていただきます。

次の議題は非公開となりますので、プレスの方は速やかに御退席ください。

午前 1 1 時 4 6 分 閉会